

日本大学の現況と課題

—全学自己点検・評価報告書2015—

(大学・短期大学部・専門学校)

点検・評価結果及び改善意見

【歯学部附属歯科技工専門学校，歯学部附属歯科衛生専門学校】

目 次

基準Ⅰ	理念・目的	- 1 -
基準Ⅱ	教育研究組織	- 3 -
基準Ⅲ	教員・教員組織	- 5 -
基準Ⅳ	教育内容・方法・成果	- 8 -
IV-1	教育目標，学位授与方針，教育課程の編成・実施方針	- 8 -
IV-2	教育課程・教育内容	- 11 -
IV-3	教育方法	- 13 -
IV-4	成果	- 16 -
基準Ⅴ	学生の受け入れ	- 18 -
基準Ⅵ	学生支援	- 21 -
重点項目1	修学継続支援，学修意欲の喚起	- 24 -
	歯学部附属歯科技工専門学校，歯学部附属歯科衛生専門学校の改善意見	- 27 -

基準Ⅰ 理念・目的

1. 現状の説明

1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。

[評価の視点]

- ・ 大学の理念・目的，及びそれに基づく学部・研究科等の理念・目的の明確化
- ・ 個性や特徴の確立化
- ・ 大学の教育理念「自主創造」の能力を持つ人材の育成

〈1〉歯学部附属歯科技巧専門学校

歯学部附属歯科技工専門学校では，最新の歯科治療，歯科技工に関する教育を行い，さらに医療人として知識や技術だけでなく広い視野を持ち，自主創造の気風を持つ人間性豊かな教養を身につけた人材の育成を教育理念・目標としている。

〈2〉歯学部附属歯科衛生専門学校

歯学部附属歯科衛生専門学校では，歯科医療の多様化，高度化が進行する中で，高度な技術や知識習得のほかに人と人との関係の中で行われる保健医療の実践に際し，優れた人格と自主創造の気風を持つ人間性豊かな歯科衛生士養成を教育理念・目的としている。

2 大学・学部・研究科等の理念・目的が，大学構成員（教職員及び学生）に周知され，社会に公表されているか。

[評価の視点]

- ・ 構成員に対する周知方法と有効性
- ・ 社会への公表方法

〈1〉歯学部附属歯科技巧専門学校

歯学部附属歯科技工専門学校では，歯科技工士に必要な基礎的歯科医学知識と歯科技工技術を身につけ，医療人として知識や技術だけでなく，広い視野を持ち，人間性豊かな教養を身につけた人材の育成を教育目標とし，授業計画（シラバス）の学修到達目標に掲載し，学生，講義担当者等に周知徹底，公表している。

〈2〉歯学部附属歯科衛生専門学校

歯学部附属歯科衛生専門学校では，歯科医療の多様化，高度化が進む中で技術や知識も重要ではあるが，医療人として必要な知識と技術，そして心豊でいつも明るく優しさを持って患者をサポートできる歯科衛生士の養成を教育目的とし，授業計画（シラバス）の学修到達目標に掲載し，学生，講義担当者等に周知徹底，公表している。

3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。

[評価の視点]

- ・ 理念・目的を検証する責任主体，検証体制・方法

〈1〉 歯学部附属歯科技巧専門学校

歯学部附属歯科技工専門学校では，理念・目的の適切性は本学部の刊行物等を各種委員会で毎年見直し，修正することで対応している。

〈2〉 歯学部附属歯科衛生専門学校

歯学部附属歯科技工専門学校と共通。

基準Ⅱ 教育研究組織

1. 現状の説明

1 大学の学部・学科・研究科・専攻及び附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか。

[評価の視点]

- ・ 教育研究組織の編制原理
- ・ 理念・目的との適合性
- ・ 学術の進展や社会の要請との適合性

〈1〉歯学部附属歯科技術専門学校

歯学部附属歯科技術専門学校では、歯科技工士に必要な基礎的歯科医学知識と歯科技工技術を身につけ、医療人として知識や技術だけでなく、広い視野を持ち、人間性豊かな教養を身につけた人材を育成する。

〈2〉歯学部附属歯科衛生専門学校

歯学部附属歯科衛生専門学校では、歯科医療の多様化、高度化が進む中で、技術や知識も重要ではあるが、医療人として必要な知識と技術、そして心豊かでいつも明るく優しさを持って患者をサポートできる歯科衛生士を養成する。

2 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。

[評価の視点]

- ・ 教育研究組織を検証する委員会等の設置状況、運営状況

〈1〉歯学部附属歯科技術専門学校

専門学校運営委員会を定期的で開催し、適正な運営を行っている。

〈2〉歯学部附属歯科衛生専門学校

歯学部附属歯科技術専門学校と共通。

2. 点検・評価

1 効果が上がっている事項

〈1〉歯学部附属歯科技術専門学校

歯学部附属歯科技術専門学校では、技術・技能教育に重点を置き、資質の伸長と科学的思考を養い、併せて広い視野を持ち、人間性豊かな教養を身につけた人材を育成している。

〈2〉歯学部附属歯科衛生専門学校

歯学部附属歯科衛生専門学校では、学生自らが学ぶ大切さに芽生え、率先して歯科衛生士の知識と技術を身につけようとする「自助努力」を育成すること、歯科衛生士を取り巻

く環境に直面する中で、状況を正しく理解し、自分のなすべきことを的確に選択して行動する「専門力」を養成している。

2 改善すべき事項

〈1〉 歯学部附属歯科技巧専門学校

歯学部附属歯科技工専門学校では、カリキュラムを更に充実したものにすること、施設・設備の充実を図る必要がある。

〈2〉 歯学部附属歯科衛生専門学校

歯学部附属歯科衛生専門学校では、カリキュラムの特色を表すこと、施設・設備の充実を図る必要がある。

3. 将来に向けた発展方策

1 効果が上がっている事項

〈1〉 歯学部附属歯科技巧専門学校

歯学部附属歯科技工専門学校では、第1学年において、口腔及び歯科材料や機械器具などについて学び、歯科技工士としての基礎知識を身につける。第2学年において、専門的な知識や実践的な技術を身につけ、応用力を養う。第3学年において、習得した理論・技術を基本とし、歯科技工士としての更なる技術向上を図る等の方針に基づいて計画を実行している。

〈2〉 歯学部附属歯科衛生専門学校

歯学部附属歯科衛生専門学校では、第1学年において、人体や歯・口腔の構造と機能について学び、歯科衛生士としての基礎知識を身につける。第2学年において、臨床実習を経てより実践的な技術を身につける。第3学年において臨床実習や学外実習で、応用力や実践力を高める等の方針に基づいて計画を実行している。

2 改善すべき事項

〈1〉 歯学部附属歯科技巧専門学校

歯学部附属歯科技工専門学校では、教育目標を達成するためにカリキュラムを更に充実したものとし、施設・設備の充実を図ることで、学びやすい環境を作ることが必要である。

〈2〉 歯学部附属歯科衛生専門学校

歯学部附属歯科衛生専門学校では、教育目標を達成するためにカリキュラムの特色を表すこと、施設・設備の充実を図ることで、学びやすい環境を作ることが必要である。

基準Ⅲ 教員・教員組織

1. 現状の説明

1 大学として求める教員像及び教員組織の編制方針を明確に定めているか。

[評価の視点]

- ・ 教員に求める能力・資質等の明確化
- ・ 教員構成の明確化，編成方針の共有方法
- ・ 教員の組織的な連携体制と教育研究に係る責任の所在の明確化

〈1〉歯学部附属歯科技巧専門学校

歯学部附属歯科技工専門学校の教員採用にあたっては，専修学校設置基準及び学則等に基づいて採用している。また，各学科目に対して，教科担当責任者を置くことで，各学科目の窓口を一本化にしている。

〈2〉歯学部附属歯科衛生専門学校

歯学部附属歯科衛生専門学校の教員採用にあたっては，専修学校設置基準及び学則に基づいて採用している。また，各学科目に対して，授業担当責任者及び授業担当主任者を置くことで，各学科目の窓口を一本化にしている。

2 学部・研究科等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。

[評価の視点]

- ・ 編制方針に沿った教員組織の整備
- ・ 法令に定める必要専任教員数の確保，年齢構成バランスの適切性
- ・ 授業科目と担当教員の適合性を判断する仕組みの整備

〈1〉歯学部附属歯科技巧専門学校

歯学部附属歯科技工専門学校の教員構成は以下のとおりである。

60歳以上 4名，30～34歳 1名 計5名（平成27年5月1日現在）

〈2〉歯学部附属歯科衛生専門学校

歯学部附属歯科衛生専門学校の教員構成は以下のとおりである。

55～59歳 1名，40～45歳 2名，35～39歳 1名 計4名（平成27年5月1日現在）

3 教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか。

[評価の視点]

- ・ 教員の募集・採用・昇格等に関する規程及び手続きの明確化
- ・ 規程，内規等に従った適切な教員人事
- ・ 本学の教育者・研究者としての適性を図るための審査・選考

〈1〉歯学部附属歯科技巧専門学校

歯学部附属歯科技工専門学校では、教員人事については、歯学部長の諮問機関である専門学校運営委員会の教員人事に関する事項に基づいて審議答申を行っている。

〈2〉歯学部附属歯科衛生専門学校

歯学部附属歯科衛生専門学校では、教員人事については、歯学部長の諮問機関である専門学校運営委員会の教員人事に関する事項に基づいて審議答申を行っている。

4 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか。

[評価の視点]

- ・ 教員の教育・研究，学内運営，社会貢献等の活動状況に対する評価の実施
- ・ ファカルティ・ディベロップメント（FD）の実施状況と有効性

〈1〉歯学部附属歯科技工専門学校

歯学部附属歯科技工専門学校では、全国歯科技工士教育協議会主催の専任教員講習会に出席することで、カリキュラムプランニング，コミュニケーション力の育成等の資質向上を図っている。

〈2〉歯学部附属歯科衛生専門学校

歯学部附属歯科衛生専門学校では、全国歯科衛生士教育協議会及び日本歯科衛生教育学会主催の講習会に出席することで、コミュニケーション能力等の向上を図っている。

2. 点検・評価

1 効果が上がっている事項

〈1〉歯学部附属歯科技工専門学校

歯学部附属歯科技工専門学校では、教科担当責任者がその学科目に対応していくことから、報告・連絡・質疑・要望等が容易に行われている。また、歯科技工教育の大綱化に向けて、カリキュラム編成等に役立っている。

〈2〉歯学部附属歯科衛生専門学校

歯学部附属歯科衛生専門学校では、授業担当責任者及び授業担当主任者がその学科目に対応していくことから、報告・連絡・質疑・要望等が容易に行われている。

また、講習等を受講した教員は、講習内容について教員間で話し合いを行い、教育活動等に役立っている。

2 改善すべき事項

〈1〉歯学部附属歯科技工専門学校

歯学部附属歯科技工専門学校では、新しい技術等に対応していくため、教員の年齢構成について検討する必要があること、教員の年齢構成に偏りがあるため、採用にあたっては慎重に検討する必要がある。また、歯科技工士国家試験の全国統一化に伴い、現在の教育カリキュラムについて、見直しも含めて編成していく必要がある。

〈2〉 歯学部附属歯科衛生専門学校

歯学部附属歯科衛生専門学校では、教育の更なる充実を図るため、専任教員及び非常勤講師の採用にあたっては、慎重に検討する必要がある。

3. 将来に向けた発展方策

1 効果が上がっている事項

〈1〉 歯学部附属歯科技巧専門学校

歯学部附属歯科技工専門学校では、歯科技工教育の大綱化については、時間制から単位制への移行が求められているところであるが、本校においては単位制を既に行っており、一部分について検討することとなっている。

〈2〉 歯学部附属歯科衛生専門学校

歯学部附属歯科衛生専門学校では、引き続き継続していく。

2 改善すべき事項

〈1〉 歯学部附属歯科技巧専門学校

歯学部附属歯科技工専門学校では、最新の技術等に対応でき、他機関との連携を図れる教員を採用する必要がある。また、歯科技工士国家試験の全国統一化に伴った教育カリキュラムを編成していく必要がある。

〈2〉 歯学部附属歯科衛生専門学校

歯学部附属歯科衛生専門学校では、教育に支障が出ないように、専任教員及び非常勤講師の採用計画を行う必要がある。

基準Ⅳ 教育内容・方法・成果

Ⅳ－１ 教育目標，学位授与方針，教育課程の編成・実施方針

1. 現状の説明

1 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。

[評価の視点]

- ・ 学士課程・短期大学士課程・修士課程・博士課程・専門職学位課程の教育目標の明示方法
- ・ 教育目標と学位授与方針との整合性
- ・ 学位授与方針における修得すべき学修成果，その達成のための諸要件等の明示

〈1〉歯学部附属歯科技巧専門学校

歯学部附属歯科技工専門学校では，専門士の称号が授与されるため，学位は授与されない。

〈2〉歯学部附属歯科衛生専門学校

歯学部附属歯科技工専門学校と共通。

2 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。

[評価の視点]

- ・ 教育課程の編成・実施方針の策定とその明示方法
- ・ 教育目標・学位授与方針と教育課程の編成・実施方針との整合性
- ・ 科目区分，必修・選択の別，単位数等の明示

〈1〉歯学部附属歯科技巧専門学校

歯学部附属歯科技工専門学校では，教育課程の編成や実施方針については，歯科技工士学校養成所指定規則に基づいて行っている。また，本校の学科目については，時間数と共に単位数も明示している。授業計画（シラバス）に学修到達目標が明示され，それを履修することで単位を取得し，専門士の称号が付与される方針をとっている。

〈2〉歯学部附属歯科衛生専門学校

歯学部附属歯科衛生専門学校では，教育課程の編成や実施方針については，歯科衛生士学校養成所指定規則に基づいて行っている。また，本校の学科目については，時間数と共に単位数も明示している。授業計画（シラバス）に学修到達目標が明示され，それを履修することで単位を取得し，専門士の称号が付与される方針をとっている。

3 教育目標，学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針が，大学構成員（教職員及び学生等）に周知され，社会に公表されているか。

[評価の視点]

- ・ 学内への周知方法とその有効性
- ・ 社会への公表方法とその適切性

〈1〉 歯学部附属歯科技巧専門学校

歯学部附属歯科技工専門学校では、授業計画（シラバス）という形で、教職員及び学生に公表されている。

〈2〉 歯学部附属歯科衛生専門学校

歯学部附属歯科技工専門学校と共通。

4 教育目標、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。

[評価の視点]

- ・ 教育目標、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針の適切性を検証する責任主体・組織、検証方法

〈1〉 歯学部附属歯科技巧専門学校

歯学部附属歯科技工専門学校では、平成24年度からの学則改正により、歯科技工士養成所指定規則に定める各学科目の時間数に単位数を設定した。このことにより、本校卒業後の他の大学への編入並びに科目等履修生制度の申請への対応が容易になった。

〈2〉 歯学部附属歯科衛生専門学校

歯学部附属歯科衛生専門学校では、平成19年度から3年制課程への移行に伴い、大幅なカリキュラム変更を実施した。カリキュラム改正では、様々な人々に対応できる歯科医療技術者の要請を目的とし、人間性豊かな職業人としての人格形成に重点を置き、教育を行っている。

2. 点検・評価

1 効果が上がっている事項

〈1〉 歯学部附属歯科技巧専門学校

歯学部附属歯科技工専門学校では、歯科技工士養成所指定規則に則った教育課程において実施されている。また、学則改正の中で、授業開始時間を午後3時からとした。このことにより、第3学年の臨床模型実習においては、必要に応じて附属歯科病院の開院時間内に実習を行うことができるため、歯科医師からの指示を受けるなど、教育の効果が高まる。

〈2〉 歯学部附属歯科衛生専門学校

歯学部附属歯科衛生専門学校では、歯科衛生士養成所指定規則に則った教育課程において実施されている。歯科衛生士法に基づき、歯科疾患の予防及び口腔衛生の向上を図るうえで重要な役割を担う歯科衛生士養成のため、必要とされる知識に裏付けされた手技の習熟を目指している。更に、健康な人の予防処置、口腔疾患を有する人及び病める人を対象

に業務を行う歯科医療技術者の養成を目的とし、人間性豊かな職業人としての人格形成に重点を置いて教育を行っている。

2 改善すべき事項

〈1〉 歯学部附属歯科技巧専門学校

歯学部附属歯科技工専門学校では、歯科技工士国家試験全国統一化及び歯科技工教育の大綱化に向けたカリキュラム編成が必要となる。また、現状の対応策の一部として、午後3時からの臨床模型実習に多くの学生を参加させるような教育体制にしていきたい。

〈2〉 歯学部附属歯科衛生専門学校

歯学部附属歯科衛生専門学校では、社会への公表が行われていない。

3. 将来に向けた発展方策

1 効果が上がっている事項

〈1〉 歯学部附属歯科技巧専門学校

歯学部附属歯科技工専門学校では、引き続き継続していく。

〈2〉 歯学部附属歯科衛生専門学校

歯学部附属歯科技工専門学校と共通。

2 改善すべき事項

〈1〉 歯学部附属歯科技巧専門学校

歯学部附属歯科技工専門学校では、歯科技工士国家試験全国統一化及び歯科技工教育の大綱化に向けたカリキュラム編成が必要となり、それに伴う学則改定等を準備していく必要がある。また、現状の対応策の一部である午後3時からの臨床模型実習の教育体制に伴う教員配置についても再検討する必要がある。

〈2〉 歯学部附属歯科衛生専門学校

歯学部附属歯科衛生専門学校では、ホームページに授業計画（シラバス）を掲載することで、社会に公表することができる。

IV－2 教育課程・教育内容

1. 現状の説明

1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

[評価の視点]

- ・ 必要な授業科目の開設状況
- ・ 順次性のある授業科目の体系的配置とその適切性
- ・ 教育課程の適切性を検証する責任主体・組織，検証方法

〈1〉歯学部附属歯科技巧専門学校

歯学部附属歯科技工専門学校では、学年進行とともに理解度や経験に合わせて、入学時から卒業時までの一貫したカリキュラムの中で実施している。

〈2〉歯学部附属歯科衛生専門学校

歯学部附属歯科技工専門学校と共通。

2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。

[評価の視点]

- ・ 教育課程の編成・実施方針と教育内容の関連性
- ・ キャリア教育や実践的な職業教育の実施状況（専門学校）

〈1〉歯学部附属歯科技巧専門学校

歯学部附属歯科技工専門学校では、学年進行とともに理解度や経験に合わせて、入学時から卒業時までの一貫したカリキュラムの中で実施している。なお、本校では職業教育は実施していない。

〈2〉歯学部附属歯科衛生専門学校

歯学部附属歯科技工専門学校と共通。

2. 点検・評価

1 効果が上がっている事項

〈1〉歯学部附属歯科技巧専門学校

歯学部附属歯科技工専門学校では、教育課程の適切性を検証するために、教員会を開催し、教員間で情報共有することで学生教育のフォローアップに役立てている。

〈2〉 歯学部附属歯科衛生専門学校

歯学部附属歯科技工専門学校と共通。

3. 将来に向けた発展方策

1 効果が上がっている事項

〈1〉 歯学部附属歯科技工専門学校

歯学部附属歯科技工専門学校では，引き続き継続していく。

〈2〉 歯学部附属歯科衛生専門学校

歯学部附属歯科技工専門学校と共通。

IV-3 教育方法

1. 現状の説明

1 教育方法及び学習指導は適切か。

[評価の視点]

- ・ 教育目標の達成に向けた授業形態（講義・演習・実験等）の採用
- ・ 履修科目登録の上限設定，学習・学修指導の充実
- ・ 学生の主体的参加を促す授業方法

〈1〉歯学部附属歯科技巧専門学校

歯学部附属歯科技工専門学校では，歯科技工士学校養成所指定規則に基づくカリキュラムに従い，全国歯科技工士教育協議会で指定される教科書等を使用することで国家試験対策を行っている。

〈2〉歯学部附属歯科衛生専門学校

歯学部附属歯科技工専門学校と共通。

2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。

[評価の視点]

- ・ シラバスの作成と内容の充実
- ・ 授業内容・方法とシラバスとの整合性，及びその検証方法

〈1〉歯学部附属歯科技巧専門学校

歯学部附属歯科技工専門学校では，学修到達目標，授業時間，成績評価，注意事項等を掲載している。

〈2〉歯学部附属歯科衛生専門学校

歯学部附属歯科技工専門学校と共通。

3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。

[評価の視点]

- ・ 成績評価方法及び成績評価基準の明示
- ・ 成績評価方法及び成績評価基準の公正性・厳格性の確保
- ・ 単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性
- ・ 既修得単位認定の適切性

〈1〉歯学部附属歯科技巧専門学校

歯学部附属歯科技工専門学校では，学則に基づいて，定期試験・実習試験等を行いその成績において単位認定のための評価を行っている。また，授業計画（シラバス）において

成績評価の基準とその比率を明示し、学生の授業への準備・受講への一助としている。

〈2〉歯学部附属歯科衛生専門学校

歯学部附属歯科技工専門学校と共通。

4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。

[評価の視点]

- ・ 教育成果の検証方法及び検証結果を教育課程や教育内容・方法に結びつける方策とその有効性

〈1〉歯学部附属歯科技工専門学校

歯学部附属歯科技工専門学校では、授業内容及び方法の改善を図るための組織的研修について、教員会を開き、学生の修学状況を把握し、個々に適応した指導を行っている。また、学生による授業評価のアンケートを実施し、内容の確認を行っている。結果内容については担当教員及び他の教員も共有し、校長がアドバイスを行う等、授業の改善及び学生指導に役立っている。

〈2〉歯学部附属歯科衛生専門学校

歯学部附属歯科衛生専門学校では、授業内容及び方法の改善を図るための組織的研修について、教員会を開き、学生の修学状況を把握し、個々に適応した指導を行っている。また、授業評価のアンケート調査の結果に基づいて、校長が担当教員へアドバイス等を行うことで授業の改善及び学生指導等に役立っている。

2. 点検・評価

1 効果が上がっている事項

〈1〉歯学部附属歯科技工専門学校

歯学部附属歯科技工専門学校では、国家試験に即した教育を実践している。

授業内容についての質問等については、オフィスアワー等を利用することで、学生の授業内容のフォローアップに役立っている。成績評価については、国家試験合格を念頭に置いた授業内容であるため、評価基準は絶対評価であり、60点以上を合格としている。そのため、成績評価においては公正かつ厳格に行われている。教育成果については、学生による授業評価のアンケート結果を基に、授業担当教員にフィードバックし、授業等の改善に役立っている。

〈2〉歯学部附属歯科衛生専門学校

歯学部附属歯科衛生専門学校では、国家試験に即した教育を実践している。

授業内容についての質問等については、授業担当責任者及び授業担当主任者が適宜対応するということで、学生の授業内容のフォローアップに役立っている。成績評価については、国家試験合格を念頭に置いた授業内容であるため、評価基準は絶対評価であるため、

60点以上を合格としている。そのため、成績評価においては公正かつ厳格に行われている。
教育成果については、学生による授業評価のアンケート結果を基に、授業担当教員にフィードバックし、授業等の改善に役立てている。

3. 将来に向けた発展方策

1 効果が上がっている事項

〈1〉 歯学部附属歯科技巧専門学校

歯学部附属歯科技工専門学校では、引き続き継続していく。

〈2〉 歯学部附属歯科衛生専門学校

歯学部附属歯科技工専門学校と共通。

IV-4 成果

1. 現状の説明

1 教育目標に沿った成果が上がっているか。

[評価の視点]

- ・ 学生の学修成果及び目標達成度を測定するための評価指標の開発とその適用
- ・ 学生の自己評価, 卒業後の評価 (就職先の評価, 卒業生評価)

〈1〉歯学部附属歯科技巧専門学校

歯学部附属歯科技工専門学校では、学修成果の多角的評価方法として、国家試験合格率や就職率で評価を行っている。

〈2〉歯学部附属歯科衛生専門学校

歯学部附属歯科技工専門学校と共通。

2 学位授与 (卒業・修了認定) は適切に行われているか。

[評価の視点]

- ・ 学位授与方針に基づいた学位授与の実施状況とその適切性
- ・ 卒業判定手続きの適切性

〈1〉歯学部附属歯科技巧専門学校

歯学部附属歯科技工専門学校では、学則に基づいて、定期試験・実習試験等を行いその成績において卒業判定のための評価を行っている。卒業が認められた者には、卒業証書が授与され、歯科技工専門課程歯科技工士学科を修了した者には、専門士の称号が授与される。

〈2〉歯学部附属歯科衛生専門学校

歯学部附属歯科技工専門学校と共通。

2. 点検・評価

1 効果が上がっている事項

〈1〉歯学部附属歯科技巧専門学校

歯学部附属歯科技工専門学校では、平成26年度実績において、国家試験合格率、就職率ともに100%となっている。また、卒業判定においては、適切かつ厳正に行われている。

〈2〉歯学部附属歯科衛生専門学校

歯学部附属歯科衛生専門学校では、平成26年度実績において、国家試験合格率、就職率ともにほぼ100%となっている。また、卒業判定においては、適切かつ厳正に行われている。

2 改善すべき事項

〈1〉歯学部附属歯科衛生専門学校

歯学部附属歯科衛生専門学校では、国家試験合格率、就職率ともに100%を目指していく必要がある。

3. 将来に向けた発展方策

1 効果が上がっている事項

〈1〉歯学部附属歯科技工専門学校

歯学部附属歯科技工専門学校では、引き続き継続していく。

〈2〉歯学部附属歯科衛生専門学校

歯学部附属歯科技工専門学校と共通。

2 改善すべき事項

〈1〉歯学部附属歯科衛生専門学校

歯学部附属歯科衛生専門学校では、国家試験合格率、就職率ともに100%を目指すための対策を教員間で検討していく必要がある。

基準Ⅴ 学生の受け入れ

1. 現状の説明

1 学生の受け入れ方針を明示しているか。

[評価の視点]

- ・ 大学・学部・研究科等の理念・目的・教育目標に基づいた学生の受け入れ方針の策定とその明示方法
- ・ 当該課程に入学するに当たり、修得しておくべき知識等、学生に求める内容・水準の明示
- ・ 本学への入学を希望する障がいをもつ学生や社会人、外国人留学生等、多様な学生の受け入れ方針の策定とその明示方法

〈1〉歯学部附属歯科技巧専門学校

歯学部附属歯科技工専門学校では、歯科医療の一翼を担う歯科技工士として、患者さんの口腔内の機能や審美性の回復に関わり、「国民の健康に貢献したい」と考える学生像を明示し、学校案内に掲載している。

〈2〉歯学部附属歯科衛生専門学校

歯学部附属歯科衛生専門学校では、専門的知識と技能を用いて歯および口腔の疾患について、保健指導、予防処置、診療補助を行い、歯科医師と共に患者さんの健康増進のために貢献したいと考える学生像を明示し、学校案内に掲載している。

2 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集及び入学者選抜を行っているか。

[評価の視点]

- ・ 学生の受け入れ方針に基づいた学生募集方法、入学者選抜方法の適切性
- ・ 入学者選抜において透明性を確保するための措置の適切性

〈1〉歯学部附属歯科技巧専門学校

歯学部附属歯科技工専門学校における学生募集について、ホームページによる周知、広告業者の電子媒体による周知、進学相談会や学校見学での周知を行っている。

入学者選抜方法については、AO入試、附属高等学校推薦入試、指定校推薦入試、一般推薦入試、一般入試を実施している。

〈2〉歯学部附属歯科衛生専門学校

歯学部附属歯科衛生専門学校における学生募集について、ホームページによる周知、広告業者の電子媒体による周知、進学相談会や学校見学での周知を行っている。

入学者選抜方法については、附属高等学校推薦入試、一般推薦入試、一般入試を実施している。

3 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

[評価の視点]

- ・ 入学定員に対する入学者数比率及び収容定員に対する在籍学生数比率の適切性
- ・ 収容定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応の適切性

〈1〉歯学部附属歯科技巧専門学校

歯学部附属歯科技工専門学校における、平成27年度学生数は収容定員105名に対して67名が在籍しており、充足率は約64%である。

〈2〉歯学部附属歯科衛生専門学校

歯学部附属歯科衛生専門学校における、平成27年度学生数は収容定員120名に対して118名が在籍しており、充足率は約98%である。

4 学生募集及び入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。

[評価の視点]

- ・ 学生募集及び入学者選抜について検証する仕組みの確立とその適切性

〈1〉歯学部附属歯科技巧専門学校

歯学部附属歯科技工専門学校では、専門学校運営委員会において入学者選抜の公正性や適切性について検証し、次年度の入試計画に反映させている。

〈2〉歯学部附属歯科衛生専門学校

歯学部附属歯科技工専門学校と共通。

2. 点検・評価

1 効果が上がっている事項

〈1〉歯学部附属歯科技巧専門学校

歯学部附属歯科技工専門学校では、本校への入学希望者へ説明及び明示することで、歯科技工士の認知度を高めることができる。また、平成27年度から新たな選抜方法として、指定校推薦入学試験及びAO入学試験を導入し、AO入学試験において、4名が入学手続きを行った。

付属高等学校推薦入学試験、指定校推薦入学試験、一般推薦入学試験においては、学部長、校長、一部の専門学校運営委員会委員による志願者の書類確認を行い、受験資格について協議を行っている。

〈2〉歯学部附属歯科衛生専門学校

歯学部附属歯科衛生専門学校では、本校への入学希望者へ説明及び明示することで、歯科衛生士の認知度を高めることができる。また、年々志願者が増加傾向にあり、平成27年

度志願者数は101名となった。平成26年度志願者数と比較して、12名増加した。

付属高等学校推薦入学試験，一般推薦入学試験においては，学部長，校長，一部の専門学校運営委員会委員による志願者の書類確認を行い，受験資格について協議を行っている。

2 改善すべき事項

〈1〉 歯学部附属歯科技巧専門学校

歯学部附属歯科技工専門学校では，定員充足率が約64%であるため，定員充足率を増やす必要がある。

〈2〉 歯学部附属歯科衛生専門学校

歯学部附属歯科衛生専門学校では，定員充足率100%を目指す必要がある。

3. 将来に向けた発展方策

1 効果が上がっている事項

〈1〉 歯学部附属歯科技巧専門学校

歯学部附属歯科技工専門学校では，平成28年度入学者の確保に向けて，指定校の数を増やし，指定校推薦入学試験での志願者増加に努めたい。

〈2〉 歯学部附属歯科衛生専門学校

歯学部附属歯科衛生専門学校では，引き続き継続していく。

2 改善すべき事項

〈1〉 歯学部附属歯科技巧専門学校

歯学部附属歯科技工専門学校では，不足への対応として，進学相談会や学校見学等の実施，高等学校訪問の実施，ダイレクトメール発送数の増加等，募集体制を強化する必要がある。

〈2〉 歯学部附属歯科衛生専門学校

歯学部附属歯科衛生専門学校では，適切な定員を確保しているが，退学者等により定員が充足していないため，退学者等の防止対策についても今後検討していく必要がある。

基準Ⅵ 学生支援

1. 現状の説明

1 学生が学修に専念し、安定した学生生活を送ることができるよう学生支援に関する方針を明確に定めているか。

[評価の視点]

- ・ 学生に対する修学支援，生活支援，進路支援に関する方針の明確化
- ・ 修学支援，生活支援，進路支援に関する方針の教職員間での共有方法

〈1〉歯学部附属歯科技巧専門学校

歯学部附属歯科技工専門学校では，4月中旬に新入生校外オリエンテーションを実施し，本校への愛校心や帰属意識を高めている。

〈2〉歯学部附属歯科衛生専門学校

歯学部附属歯科技工専門学校と共通。

2 学生への修学支援は適切に行われているか。

[評価の視点]

- ・ 奨学金等の経済的支援措置の適切性
- ・ 障がいのある学生等サポートが必要な学生に対する修学支援措置の適切性

〈1〉歯学部附属歯科技巧専門学校

歯学部附属歯科技工専門学校では，経済的支援措置として，日本大学歯学部佐藤奨学金（給付），日本学生支援機構（貸与）を採用している。

〈2〉歯学部附属歯科衛生専門学校

歯学部附属歯科衛生専門学校では，経済的措置として，日本大学歯学部佐藤奨学金（給付），日本大学歯学部附属歯科衛生専門学校同窓会奨学金（給付），日本学生支援機構（貸与）を採用している。

3 学生の生活支援は適切に行われているか。

[評価の視点]

- ・ 心身の健康保持・増進及び安全・衛生への配慮とその適切性
- ・ ハラスメント防止のための措置

〈1〉歯学部附属歯科技巧専門学校

歯学部附属歯科技工専門学校では，GHQ（メンタルヘルス調査）を全学年に対して実施することで，学生の心身の健康状態を把握するようにしている。

〈2〉歯学部附属歯科衛生専門学校

歯学部附属歯科技工専門学校と共通。

4 学生の進路支援は適切に行われているか。

[評価の視点]

- ・ 進路選択に関わる指導・ガイダンスの実施状況と適切性
- ・ キャリア支援に関する組織体制の整備
- ・ 関連する国家試験に対する支援体制

〈1〉歯学部附属歯科技巧専門学校

歯学部附属歯科技工専門学校では、進路指導の一環として、年2回の就職ガイダンスを実施している。第1回は本校卒業生による体験談の発表、第2回は就職コンサルタントによる指導が行われている。国家試験対策としては、年数回の実力試験を実施し、成績不良者に対する補講を実施することで、在校生全員が合格するように努めている。

〈2〉歯学部附属歯科衛生専門学校

歯学部附属歯科衛生専門学校では、進路指導の一環として、年1回の就職ガイダンスを実施し、本校卒業生による体験談の発表が行われている。国家試験対策としては、年数回の模擬試験を実施し、成績不良者に対する補講を実施することで、在校生全員が合格するように努めている。

2. 点検・評価

1 効果が上がっている事項

〈1〉歯学部附属歯科技巧専門学校

歯学部附属歯科技工専門学校では、新入生が仲間意識を持って学生生活を送れるようになった。また、GHQ（メンタルヘルス調査）の調査結果に応じて、学生はカウンセラーによるカウンセリングを受けることで、安定した学生生活を送れるように努めている。

平成26年度においては、就職率、国家試験合格率ともに100%であった。

〈2〉歯学部附属歯科衛生専門学校

歯学部附属歯科衛生専門学校では、平成25年度から日本大学歯学部附属歯科衛生専門学校同窓会奨学金（給付）制度を導入し、在学する第3学年2名を対象に給付を行っている。

学生の生活支援については、GHQ（メンタルヘルス調査）の調査結果に応じて、学生はカウンセラーによるカウンセリングを受けることで、安定した学生生活を送れるように努めている。

2 改善すべき事項

〈1〉歯学部附属歯科衛生専門学校

歯学部附属歯科衛生専門学校では、学生が安定した学生生活を送ることができているか、教職員がお互いに情報共有し適宜確認しあう必要がある。

国家試験については、平成26年度卒業生31名中1名が不合格であった。

3. 将来に向けた発展方策

1 効果が上がっている事項

〈1〉 歯学部附属歯科技巧専門学校

歯学部附属歯科技工専門学校では，退学者がなくなるよう努めていきたい。

〈2〉 歯学部附属歯科衛生専門学校

歯学部附属歯科衛生専門学校では，引き続き継続していく。

2 改善すべき事項

〈1〉 歯学部附属歯科衛生専門学校

歯学部附属歯科衛生専門学校では，退学者がなくなるよう努めていきたい。

国家試験においては全員合格するよう，第1学年からの教育を徹底していく必要がある。

重点項目 1 修学継続支援，学修意欲の喚起

1. 現状の説明

1 学生の留年，休学及び退学の原因を把握・分析し，適切に対処しているか。

[評価の視点]

- ・ 留年者及び休・退学者の状況把握と原因分析を踏まえた対処の適切性
- ・ 留年，休学及び退学への対処について検証する仕組み

〈1〉歯学部附属歯科技巧専門学校

歯学部附属歯科技工専門学校では，留年，休学，退学の人数及び理由等について把握し，1人でも留年，休学，退学者が少なくなるように努めている。

〈2〉歯学部附属歯科衛生専門学校

歯学部附属歯科技工専門学校と共通。

2 学修相談体制を整備し，学生の学修意欲の喚起に役立てているか。

[評価の視点]

- ・ 入学時及び学期開始時のオリエンテーションにおける履修指導の実施とその適切性
- ・ オフィスアワー等をはじめとする学修相談体制とその有効性

〈1〉歯学部附属歯科技巧専門学校

歯学部附属歯科技工専門学校では，入学開始時のオリエンテーションの際に授業計画（シラバス）の説明を行うが，授業に関わる質問や相談等については，記載されているオフィスアワーを利用するよう勧めている。

〈2〉歯学部附属歯科衛生専門学校

歯学部附属歯科衛生専門学校では，授業計画（シラバス）にオフィスアワーの項目は掲載されていないが，質疑等がある学生については，ホームルームの際に行うことで，学修意欲を低下させないよう対処している。

3 学業成績不振の学生への支援策を講じているか。

[評価の視点]

- ・ 補習・補充教育に関する支援体制とその実施状況の適切性
- ・ 不登校の学生への対応状況

〈1〉歯学部附属歯科技巧専門学校

歯学部附属歯科技工専門学校では，学業成績不振の学生に対して，補習等を実施し学修意欲を高めるよう努めている。また，不登校学生への対応としてクラス担任や事務局から連絡を取ることで状況を把握し，教員会において対応策を検討している。

〈2〉歯学部附属歯科衛生専門学校

歯学部附属歯科技工専門学校と共通。

4 学生の修学継続，満足度向上のための関係教職員・部署間等の連携・協力体制は機能しているか。
--

[評価の視点]

- ・ 相談内容に即した関係部署間の連携・協力体制の整備状況

〈1〉歯学部附属歯科技工専門学校

歯学部附属歯科技工専門学校では，学生の修学継続，満足度向上のために，学生の出来事については教員会において報告し，関係教職員において情報共有している。また，必要に応じて，専門学校運営委員会において状況報告し，協議を諮ることもある。

〈2〉歯学部附属歯科衛生専門学校

歯学部附属歯科技工専門学校と共通。

2. 点検・評価

1 効果が上がっている事項

〈1〉歯学部附属歯科技工専門学校

歯学部附属歯科技工専門学校では，教員会で情報共有し今後の対策に役立てている。

また，学生が学修する上において，授業担当者が随時質疑等に対応することで，早期の問題解決に努めている。

不登校学生については，クラス担任や事務局から随時連絡をとり，学生の現状の確認を行い，場合によっては保護者との面談も実施し，早期解決に努めている。なお，学生生活を安定したものにするために，個々の学生の相談事項や現状については常に情報共有し，あらゆる場面において対処している。

〈2〉歯学部附属歯科衛生専門学校

歯学部附属歯科技工専門学校と共通。

2 改善すべき事項

〈1〉歯学部附属歯科技工専門学校

歯学部附属歯科技工専門学校では，学業成績不振の学生のケアについて検討する必要がある。

〈2〉歯学部附属歯科衛生専門学校

歯学部附属歯科技工専門学校と共通。

3. 将来に向けた発展方策

1 効果が上がっている事項

〈1〉歯学部附属歯科技巧専門学校

歯学部附属歯科技工専門学校では、該当学生と教員が面談を密に行うことで、原因分析を行い、それらの結果を教員及び事務局で情報共有を行うことが必要である。

〈2〉歯学部附属歯科衛生専門学校

歯学部附属歯科技工専門学校と共通。

2 改善すべき事項

〈1〉歯学部附属歯科技巧専門学校

歯学部附属歯科技工専門学校では、学業成績不振の学生が、学業の伸び悩みなのか、その他に原因があるのか、詳細事項を面談において学生に確認しておく必要がある。

〈2〉歯学部附属歯科衛生専門学校

歯学部附属歯科技工専門学校と共通。

歯学部附属歯科技工専門学校、歯学部附属歯科衛生専門学校の改善意見

○歯学部附属歯科技工専門学校（計 1 件）

基準，重点的 点検・評価項目	教育内容・方法・成果 (教育目標，学位授与方針，教育課程の編成・実施方針)
改善事項	歯科技工士国家試験の全国統一化への対応 歯科技工教育の大綱化に向けたカリキュラム編成
改善の方向及び 具体的方策	<p>[改善の方向]</p> <p>本年度まで都道府県単位で実施されていた歯科技工士国家試験が，平成 28 年から全国統一化となることが確定した。そのため，新規に制定される試験制度に向けた卒前教育を行うことが必要となる。</p> <p>一方，近い将来歯科技工教育が大綱化され，履修科目認定における単位制が導入される。この変革に対応したカリキュラム編成が必要となる。</p> <p>[具体的方策]</p> <p>歯科技工士試験については，厚生労働省及び全国歯科技工士教育協議会等の関係団体から情報を受け，新制度下の試験に対処すべく，校内の教育体制を整備している。検証は，教員会と専門学校運営委員会が担当する。</p> <p>歯科技工教育の大綱化においては，厚生労働省と文部科学省から教育内容，分野別修得単位数および教育目標についての文書が発行されている。歯科技工専門学校では，平成 24 年から各科目の単位数を表示しているが，現在，大綱化に対処すべく，担当者が教育内容と修得単位の検討を行っている。本件につき，教員会と専門学校運営委員会は内容の適切性等について検証している。</p>
改善達成時期	平成 27 年度
改善担当部署等	教務課（専門学校事務室）

○歯学部附属歯科衛生専門学校（計 1 件）

基準，重点的 点検・評価項目	学生の受け入れ
改善事項	学生の適切な定員確保
改善の方向及び 具体的方策	<p>[改善の方向]</p> <p>歯学部附属歯科衛生専門学校における，平成 27 年度学生数は収容定員 120 名に対して 118 名が在籍しており，充足率は約 98%である。今後は，定員充足率 100%を目指す必要がある。</p>

	<p>【具体的方策】</p> <p>歯学部附属歯科衛生専門学校では、適切な定員の確保に努めているが、退学者等により定員が充足していない。そのため対応策として、クラス担任が該当学生に対して個人面談を行っている。</p> <p>また、理由等によっては校長及び教務主任が面談を行い、退学者等の防止対策に努めている。検証方法については、歯科衛生専門学校で検証し、その検証内容について、専門学校運営委員会において諮り、適切性等について検証している。</p>
改善達成時期	平成 27 年度
改善担当部署等	教務課（専門学校事務室）

以 上